

## 校庭拡張にまつわる話

～2度にわたる工事を経て誕生した

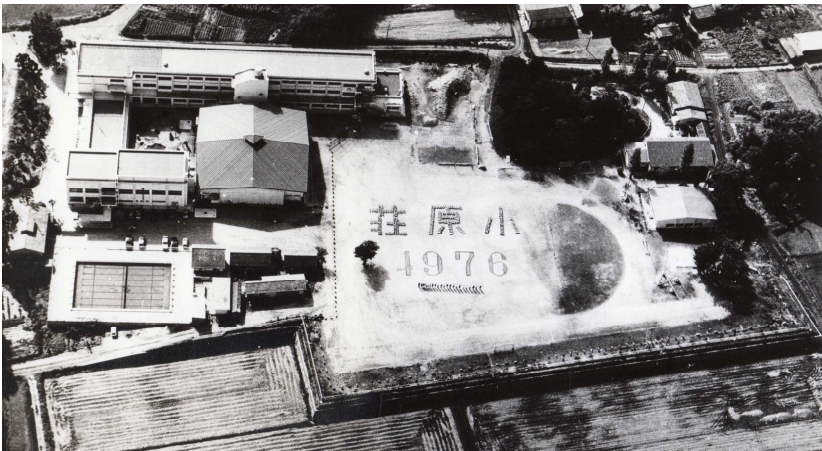
荘原小学校の校庭～



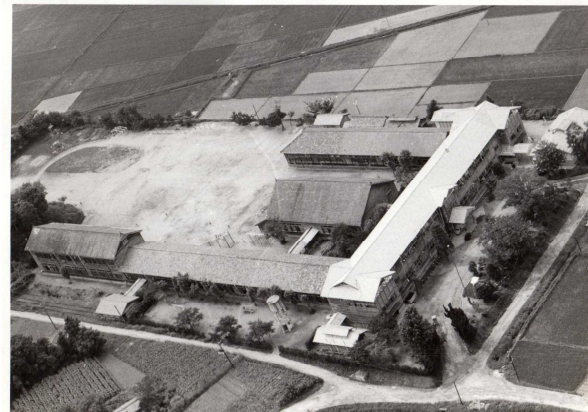
本校が、現在の神庭273番地に開校したのは、大正9（1920）年7月15日。それ以来、校舎は何度かの増築・改築等を繰り返し、現在に至っています。

一方校庭は、開校当時は3,980㎡（約4反：1200坪）で現在の半分の広さしかありませんでした。今も残る旧給食調理場の北の端と校庭西側の相撲場近くにある砂場の中央あたりとを直線で結んだ線より北側はありませんでした。ですから、現在の100m走路はもちろん、200mトラックの北半分はなかったこととなります。第一次校庭拡張工事以前（昭和45年度以前）の校庭では、現在よりずっと南校舎側によってトラックが描かれていました。その第一次校庭拡張工事は、昭和46年1月8日から昭和47年3月28日まで1年余りをかけて行われ、それまでの倍以上の広さ8,733㎡（約8.8反：2650坪）となりました。

その20年後の平成元年、校庭拡張についての陳情書が提出され、校庭拡張委員会が発足しています。主たる陳情理由は、第一次整備後20年が経過し、排水施設の不備等によって、表土流失による凹凸が著しく校庭中央部が低くなり帯水する問題が生じていることや、降雨後の校庭使用や駐車に支障をきたしていることがあげられています。また、文部省の校庭基準は、18学級の場合8,554㎡でした。発足時の委員会は、教育振興会正副会長、大字代表自治委員、町会議員、PTA正副会長、学校長で組織され、組織を拡充しながら、地権者の方や町へのお願い等が続けられました。



【▲昭和51年 校舎改築直後の校庭の様子】



【▲昭和30年代終わりの頃の校庭の様子】

永年の活動の結果、平成12年8月から平成13年3月まで第二次校庭拡張工事と駐車場工事が実施され、排水施設の埋設工事と校庭東側に100台駐車場が整備されました。

左上の写真は、昭和51年の校舎竣工時の写真です。この時の校庭は、現在と同じく広々としていますが、100台

駐車場は整備されていません。左下の写真は、はっきりした撮影時は不明ですが、この写真から校庭拡張前の校庭の広さがよくわかります。

木造の体育館であり、給食調理場も見えますので、昭和30年代終わりから昭和41年頃の様子だろうと想像できます。この頃の児童数は700名あまりでしたので、全校体育や運動会などは大変だったろうと想像できます。

現在は、400名あまりの子ども達は、毎日思いっきり体を動かすことができますし、広い駐車場も完備されているため、社会体育も本校の校庭をフル活用していただいています。